

令和3年12月1日
 大田市立第二中学校
 指導者 伊藤聡子
 Nicholas DeGovine

1 単元名 自分に影響を与えた人やものについてALTに伝えよう

(New Horizon English Course 3 Unit 5 A Legacy for Peace)

2 単元の目標

自分に影響を与えた人やものについてALTに伝えるために、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

3 関係する領域別目標

話すこと 〔発表〕	イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。
--------------	---

4 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 〔発表〕	<ul style="list-style-type: none"> ・接触節や関係代名詞 who, which, that を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・自分に影響を与えた人やものについて、事実や自分の考え、感じていることやその理由を整理し、接触節や関係代名詞を用いた文を用いて話す技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に影響を与えた人やものについてALTに伝えるために、事実や自分の考え、感じていることやその理由を整理し、簡単な語句や文を用いて話している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に影響を与えた人やものについてALTに伝えるために、事実や自分の考え、感じていることやその理由を整理し、感じていることやその理由などをまとめ、簡単な語句や文を用いて話そうとしている。

5 学習の基盤

(1) 教材について

本単元は、多くの人々に影響を与えたインドの民族独立運動の最高指導者であるガンディーについて扱う。ガンディーの非暴力を基本とした独立運動の内容を通して「理不尽なことに屈しない心」「暴力に訴えない行動」について深く考え、平和や人権の大切さについて考えることができる。

る単元である。

言語材料としては、接触節や関係代名詞（who, that, which）が扱われており、これらを使えるようになると、人やものについてさらに詳しく説明することができるようになる。

単元ゴールの活動として、ALT に自分に影響を与えた人やものについて伝えるために、事実や自分の考えや気持ちなどを整理し、話す活動を行う。ALT という身近な存在に、今の自分に影響を与えている人やものについて話すことは、生徒にとって取り組みやすい活動であり、生徒の「自分のことを伝えたい」という思いを引き出せると考える。また、教科書で扱われているガンディーの伝記の表現や、時系列での説明文などを参考にしながら、話す内容について推敲を重ねられると考える。

（２）生徒について

※個人情報保護のため省略

（３）指導について

単元ゴールの活動として、自分に影響を与えた人やものについてALT に伝える活動を設定した。まず、ALT が来日した理由や影響を受けた人やものについて話すことで、活動の動機付けを行う。話す内容を整理するために思考ツールを用い、そのメモを頼りに、事実や自分の考え、思いを伝える。教科書のガンディーの伝記に用いられている表現を参考に、何をどのように、どの順番で伝えるのか、どんな表現を用いて事実や自分の考えを話せば相手に伝わりやすいかを考えさせたい。最終ゴールは「話すこと（発表）」の活動であるが、途中段階でペアでのやりとりを取り入れるなど、聞き手の知りたいことを生徒自身が考え、気づき、内容をよりよいものにできるよう指導したい。

単元ゴールの活動が話す活動であるため、話すことを意識した活動を毎時間設定し、単元の終末には、ALT に向けて発表することをめざす。小学校段階では、児童は絵や写真、メモを見ながら話すなど、音声中心の活動を行っている。その指導の継続を意識した言語活動を繰り返すことで、メモを見ながら発表できるよう、様々な話す活動をスパイラルに取り入れて、最終ゴールへと向かいたい。また、単元末には書く活動を行い、表現の定着につなげたい。

6 単元指導計画

時	ねらい (○) ・主な学習活動等	知	思	態	評価規準 [評価方法]
1	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の目標と単元ゴールの活動を理解する。 ・伝えたい人やものについて、イメージする。 ○ガンディーについての概要、スピーチの内容をつかむ。 ・Preview(Listening Point)を聞く。 ・接触節の文に慣れ親しむ (話す) 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。生徒の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が生徒の学習状況を確認する。</p> </div>			
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ガンディーについての会話のやりとりを読み取る。(p.74) ・接触節の文を用いたインタビュー活動を行う (話す)。 ・人物の写真を見ながら関係代名詞 who を含む英文で説明する。 ・”Who do you like?”をテーマにチャットをする。 				
3	<ul style="list-style-type: none"> ○伝記の概要を読み取る。 ・Read and Think②を読み、その後本文の読解をする。(pp.76-77) ・動物などの写真を見ながら関係代名詞 which/that を含む英文で説明する。 ・思考ツールに書き込む。 				
4	<ul style="list-style-type: none"> ○伝記の概要を読み取る。 ・Read and Think②を読み、その後本文の読解をする。(pp.76-77) ・”What do you like?”をテーマにチャットをする (話す)。 ○思考ツールに書き込み、メモを作成する。 ・必要な英単語をメモする。 ・伝える内容や伝える順番を決める。 				
5	<ul style="list-style-type: none"> ○紹介する内容について、構想をさらに膨らませる。 ・関係代名詞を含む文や既習の表現を用いて、ペアでチャットをする (話す)。 ・メモを見ながらペアで発表し合う (話す)。 				

6 (本時)	<p>○ペアで発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真を見ながら関係代名詞を含む文や既習の表現を用いて、ペアでクイズを出題し合う（話す）。 ・スピーチの発表後、ペアでやりとり（Q&A）し、聞き手の知りたいことなどの情報を書き加える。 ・内容を吟味し、再度ペアで発表し合う。 	発			<ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞の文を用いて、事実や自分の考え、感じていることを話す技能を身につけている。[行動観察]
7	<p>○メモを見ながら伝え合い、話す内容を推敲する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで発表を行う（メンバーから中間評価を受け、内容を検討する）。 ・ペアで発表の様子を撮影し合う。 	発			<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞の文を用いて、事実や自分の考え、感じていることを話す技能を身につけている。 [行動観察] </div>
8	<p>○内容を整理したものを伝わりやすく話すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真を見ながら関係代名詞を含む文や既習の表現を用いて、ペアでクイズを出題し合う。（話す） ・前時の動画を見て、内容や表現、態度面などを確認する。 ・ペアで発表し合う。 	発			<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞の文を用いて、事実や自分の考え、感じていることを話す技能を身につけている。 [行動観察] </div>
9	<p>○ALT に、内容を整理したものを伝わりやすく話すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで撮影し合う。 ・グループで発表後、クラスで代表が発表する。 	発	発	発	<ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞の文を用いて、事実や自分の考え、感じていることを話す技能を身につけている。 ・自分に影響を与えた人やものについて、事実や自分の考え、感じていることやその理由を整理し、簡単な語句や文を用いて話している。 ・自分に影響を与えた人やものについて、事実や自分の考え、感じていることやその理由を整理し、簡単な語句や文を用いて話そうとしている。
10	<p>○発表した英文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する 				

7 本時の学習

(1) 本時の目標

自分に影響を与えた人やものについてALTに伝えるために、思考ツールを参考にしながらペアで発表し合い、自分の話す内容をよりよいものにすることができる。

(2) 本時の展開

時	生徒の活動	指導者の活動 ◎評価規準	準備
15min	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・振り返りシートに記入する。 ・クイズをする。 (関係代名詞 who/which/that) 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする。 ・やりとりをしながら、学習への雰囲気を作る。 ・どんなヒントを出したのか聞く。 ・わからなかった表現を聞き、全体で共有する。 	スライド (写真)
30min	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ねらい：自分の話す内容を、よりよいものにしていこう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・思考ツールのメモを使ってペアでやりとり(Q&A)する。 ・質問の内容を参考に、思考ツールに書き加える。(発表順や表現の見直し) ・ペアで発表し合う。 ・クラスで発表し、良い点を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「よりよいもの」について全体で確認する。 ・ALTとのデモンストレーションを見せる。 ・やりとりのサポートに入る。 <p>◎自分に影響を与えた人やものについて、接触節や関係代名詞を用いた語句や文を用いて話す技能を身につけている。(行動観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語面、内容面、態度面での中間評価を行う。 	思考ツール 写真
3min	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに記入し、次時の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の内容を伝え、見通しをもたせる。 	

8 単元の評価（話すこと〔発表〕）

	十分満足できると判断される生徒の姿	おおむね満足と判断される生徒の姿	支援を要する生徒への手立て
知識・技能	自分に影響を与えた人やものについて、ALTに伝えるために、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、 <u>接触節や関係代名詞 (who, which, that) を用いて正しい英文でまとまりのある内容を話す技能を身につけている。</u>	自分に影響を与えた人やものについて、ALTに伝えるために、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、 <u>接触節や関係代名詞 (who, which, that) を用いて話す技能を身につけている。</u>	<ul style="list-style-type: none"> 文章の言い方や表現の仕方などを一緒に考える。 他の生徒の表現を参考に、自分の伝えたいことを一緒に確認する。
思考・判断・表現	自分に影響を与えた人やものについて、ALTに伝えるために、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、 <u>聞き手を意識したり、伝わりやすさを工夫したりして、まとまりのある内容を話している。</u>	自分に影響を与えた人やものについて、ALTに伝えるために、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、 <u>まとまりのある内容を話している。</u>	<ul style="list-style-type: none"> 文の構成を確認し、メモを見ながら発表できるよう一緒に練習する。
主体的に学習に取り組む態度	自分に影響を与えた人やものについて、ALTに伝えるために、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、 <u>聞き手を意識したり、伝わりやすさを工夫したりして、まとまりのある内容を話そうとしている。</u>	自分に影響を与えた人やものについて、ALTに伝えるために、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、 <u>まとまりのある内容を話そうとしている。</u>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや気持ち表現できるように声をかける。
発話例		<p>This is a picture I found in my album. Do you know who this is? His name is Brad. He was an ALT who worked with me for 5 years. He gave me a lot of teaching ideas which were interesting to the students. I enjoyed working with him very much. I am so lucky to meet him. I want to visit him in America someday.</p>	